

◆受賞のことば◆

観察に学ぶ想像力の養い方 ～イマジネーションは才能ではない～

大木 彩

(スポーツウエルネス学科 2015 年卒業)

私が投稿させていただいたまなびあい第11号の発刊から1年が経ちました。原稿作成時のことを懐かしんでいたところ、事務局の方からご連絡をいただき、なんと小生の投稿した内容が「研究実践奨励賞」に選ばれたとのこと。

“データに基づいた研究でも、実践報告でもない、随筆として書いた拙文が…受賞!?”

驚きもかなり大きかったです。田舎にこもりきりの私の文章が認めてもらえるものなのか…と、とても嬉しく衝撃的でした。

改めまして投稿のきっかけをくださった濁川教授、内容の相談にご協力いただいた皆様、編集等にお付き合いいただいた事務局の皆様にご挨拶申し上げます。

「田舎にこもりきり」と書きましたが、私にとって田舎とは「引っ込む」場所とは対照的です。移住当初は、田舎へ「飛び込んでいく」という感覚でした。移り住んできて3年になりますが、実際に価値観、世界観は広がったように感じます。

その貴重な学びのうちの一つが「観察」です。田舎と都会の代表的な違いとして、自然環境の豊かさがあります。自然の中には見えないもの、聞けないことがたくさんあります。例えば、声はするのに姿は見えない、鳥や虫。なぜ畑の作物の周りにこんなに生えてしまうの!?!と話を聞きたくても聞けない、たくさんの雑草たち。田舎で暮らす人々は、それらを理解できないものとして関わりをなくしてしまったり、排除してしまうわけではなく、「疑問」という観点をもって、対象をじっくり見てみます。そして、

“どうやらこの草は根っこで増えるようだよ。面倒だけど、上だけ刈ってもダメだから、根っこからとった方が良さそうだね。”

などなど、ああなのかな?こうなのかな?と「想像」をして、ときにはご近所さん同士で話し合ったりします。いわゆる井戸端会議です笑

このような観察→分析→想像を繰り返していくことで、会話ができない相手とも、付き合っていけるというわけです。

これは人の心も同じなのではないでしょうか。人には言葉という頼れるツールがありますが、それでも見えない本音や本心を抱えています。そして社会人になってビジネスマナー講座で言われました。“想像力を発揮して、相手を思いやるのが大事です!”

この想像力って、上述のものに似ていると思いませんか?観察することで、初めて相手が見えてくる。現代っ子に足りていない想像力の肝は、まさにこの「観察」なのだ、私は考えます。結局、人も、鳥も、虫も、草も、付き合い方は、あまり変わらないようです。

そしてこの観察に基づく想像は、才能でも何でもなくて、いつでもどこからでも身につけられるものだと感じます。以前書いたように、自分をじっくり見ること。今回書いたように、相手をじっくりみること。それを続けていくことで、自ずと養われていくはずですよ。

そんな観察力を発揮した、様々なものとの付き合い方やバランスのはかり方は、今後も人が元気でい続けるためのヒントになりそうです。これからも楽しみながら、学び続けたいと思います。この度は貴重な機会を、誠にありがとうございました。